

埼玉県学力・学習状況調査に係る効果的な取組事例（中学校・国語）

久喜市立鷲宮中学校

1 本校の概要

(1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果等

学年	伸びた層			本事例で取り上げた観点				左記以外に取り上げた主な取組
	上位層	中位層	下位層	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
3	○	○	○		○		○	思考ツールを活用した授業

※ 「伸びた層」は、一番伸びた層に『○』。各層において同じ伸びの場合は、複数の層に『○』。

(2) 伸びた結果の要因、背景

- ・「生徒が主役」となる授業展開の工夫を行った。
- ・個々の生徒の「自己効力感」の育成を重視した。

2 具体的な取組

(1) 教育委員会との連携による取組

- ・市教育委員会から研究委嘱校として指定を受け、校内研修の充実を図った。
- ・教育委員会から市内の効果的な取組の紹介を受け、授業改善につなげた。
- ・市研究委員会「新しい学び研究委員会」において授業改善の提案を行った。

(2) 本校独自の取組

① 授業規律の徹底

- ・授業規律の生徒教職員の共通理解を図る。（“やればできる”ための授業規律5カ条）
- ・他者の発言に静かに耳を傾け、生徒、教職員が称賛することを大切にする。

② 家庭学習の啓発

- ・家庭学習ノートの活用を図る。よくできているノートのコピーを掲示し、表彰をする。
- ・「やればできるテスト」、長期休業中の宿題や予習課題の範囲表を配布し、家庭学習で取り組むことを明確にする。

③ 日常の授業実践・・・「生徒が主役となる授業」の構築

- ・毎時間、自己評価カードに目標・振り返りを記入する。
- ・ディベートを取り入れた授業の実践や、少人数グループ学習を実施し、一人ひとりに役割を与えることで自己存在感を与える。
- ・文法や古典などの言語事項の継続的な反復学習を行う。
- ・授業や行事の感想など、文章を書く場面を増やす。

3 成果と課題

(1) 生徒の変容した（伸びた）姿について

- ・家庭学習に意欲的・継続的に取り組む生徒が増えた。知識・技能を身に付け評価を受けることが自信につながっている。
- ・「思考ツール」を活用した授業実践により思考の可視化が図られ、積極的な話し合い活動や意見交換ができるようになった。

(2) 分析結果を受け、これからの実践に向けた課題

- ・更なる授業改善に向けて、協調学習等の手法がどの場面で効果的かを検証し実践を積み重ねていく必要がある。
- ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため、個別指導の方策をさらに検討する必要がある。